

素流協 News

平成17年9月25日
第17・18号

平成17年9月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(654)8533

素流協の事業実行を通して見た

木材流通組織の役割(その一)

1. 流通機構の役割

一般論として、経済活動における流通機構の役割は、生産と消費の媒介役(橋渡し)であります。

経済が進展すればするほど流通機構が果たす役割は重要性を増し、複雑な流通機構が形成されることとなります。また、流通産業は、多様な業態を持ちながら、絶えず新しい業態を生み出していく活力ある産業といえます。さらに、流通産業は、労働集約的な側面が強く、高い雇用量を創出する力があります。しかし、このことは現在、わが国の流通産業が多くの人々を雇用している実態を見てもわかるように、労働生産性が他産業に比べて低いという結果をもたらすことにもなっています。ところで近年、この労働集約的であると同時に労働生産性が低いことが流通費用を大きくしているという考えの

もとに、流通費用を大幅に削減すること、すなわち、生産部門と消費部門(中間的消費部門も含めて)を直接つなげることが新しい流通のあり方であると考えられる人が多

うであります。しかし、このような考え方は、早計であると同時に危険であります。なぜならば、一般的に流通機構には卸機能が具備されており、この卸機能が流通機構の中で極めて重要な役割を果たすからであります。こう申しますと、大型のスーパー・マーケットなどは生産者から直接に仕入れしており、中間に卸機能を介在させていないではないかと指摘する向きがありますが、それはスーパー・マーケットが自前で卸機能を持っており、仕入れのために別の流通機構を通す必要がないからであります。一般的に、流通機構に「卸」という機能ないしは工程が存在する

ることにより、生産部門と直接取引するよりも流通費用が節減できるといわれております。この卸機能を細分化してみると、

- ①資材の取り揃え・仕分け・集積・配分を行う「品揃え機能」
- ②消費部門に対して供給可能な商品情報、生産部門に対して小売・消費情報を伝達すること、すなわち、それら情報を中間において切り替え伝達する「情報伝達機能」
- ③必要に応じて中間在庫を行い、また返品を受けるなど商業的信用を与える「危険負担機能」
- ④在庫を持ち適時適切に輸送する「中間在庫機能・輸送機能」

があります。それでは岩手県素材流通協同組合が果たしている流通機能の現状と、将来に向かって十全に流通機能を発揮させるための基本的な考え方について述べてみることにします。

2. 素流協の流通機能の現状

現在、素流協が実行している主な事業は、素流協設立(平成十五

年四月)時から一貫して行っている合板工場(ホクヨー・プライウッド、北日本プライウッド)に対して素流協組合員が生産した素材を計画的・安定的に供給すること、平成十七年度から「素材安定供給システム」に関する協定に基づいて東北森林管理局管内国有林で生産された素材を上記の合板工場に供給することであり、具体的にいえば、素流協は、素流協組合員や東北森林管理局管内の各森林管理署など素材生産部門で生産された丸太(素材)を合板工場という中間的消費部門へ移送・流通させる橋渡し役であります。それでは、素流協が流通機構としての機能を十分に果たしているかどうかを「卸機能」に焦点を置きながら現状を見てみます。

①品揃え機能については、需要者である合板工場の素材(丸太)に関する条件についての要求が比較的緩やかであり、現状において素流協がこれらの条件をクリアすることについて困難性を感ずることが少ないといえます。具体的にいえば、納材する樹種は、スギ、カラマツ、アカマツで、これらの樹種が東北地方において普遍的な植栽樹種で、かつ素材生産事業の主要対象樹種であることから比較の出荷数量がまとまりやすいのであります。また、丸太の太さ・長さ、虫害や節の数など材の質に関する規格についての許容範囲が比較的広く、素材生産者側としては生産・出材がしやすいという実態にあります。したがって、現在、素流協としては、納材数量の平準化に努めるとともに計画的・安定的・継続的な供給に重点を置いております。

②情報伝達機能については、生産部門と消費部門の橋渡し役である素流協にとって極めて重要な役割であり、正確かつ迅速な情報伝達と両者からの情報の的確なスイッチング(切り替え伝達)に務めておりますが、とくに、素流協設立後間もなくから刊行している月刊の「素流協ニュース」を組合員や

素材供給先の合板工場だけではなく関係者に広く配布しております。③危険負担機能の内容としての中間在庫機能とか返品等に係る金銭的負担については、率直に言って、設立後間もないことから財源的蓄積の少ない素流協としては、金銭的失費を伴う負担行為は困難であります。したがって、これまでのところ素流協が責任を負わなければならないような素材の中間的在庫量はそれほど多くはありません。この機能については、素流協が負担すべき分野・範囲とどの程度まで具備することが適当か等、今後の検討課題であります。

④中間在庫機能については、素流協組合員は素材生産現場近辺の林道や作業道の傍に一定量の素材を集荷して、輸送を開始するまで貯留することになりますが、これが中間在庫ということになります。したがって、素材生産地点である山元においては必ずこの在庫が発生しますが、山元には積まれた素材(中間在庫)を合板工場へ搬送する工程は、素流協組合員が自社の運搬車輦ないしは自らの責任で運送会社に担わせることとなります。また、素流協が「素材安定供給システム」に基づいて国有林野事業から購入した素材も売買契約締結の手続き等の間は山元に貯材されることとなります。これらの中間在庫機能は事業の流れの中間にかならず入ってくる工程といえますが、この工程の期間はできるだけ短縮されることが望ましいのであります。したがって、中間在庫地点から素材の需要者(合板工場等)までの計画的・効率的な輸送に関する円滑な流れを確保するためのしつかりしたシステム作りが大切であります。

輸送機能については、中間在庫の期間を極力短縮するために、適時適切に運搬車輦を配車する仕組みの構築が必須要件であります。すなわち、山元から公道に至る作業道・林道が素材を積んだ運搬車輦を安全走行が可能な程度に整備されているか、とくにトレーラー

等の大型車輛通行の可能性の有無の確認、運搬車輛の計画的・継続的な配車、山元および消費地における荷の積み下ろし手段の手当て、

運搬車輛のトータルの走行距離(空荷走行と荷積走行)ができるだけ短縮可能な地域に所在し、かつ十分な素材運搬能力を有する運

送会社の選定等々必要不可欠な事項を適切に組み込んだシステム(仕組み)を作るとともにその仕組みを十分に機能させることが大

切であります。現在中間在庫機能および輸送機能の適正化システムを事業実行過程の中で構築中であり、

視察報告「その1」

エルミア・ウッド視察報告

素流協 営業企画部長 高橋 早弓

エルミア・ウッドは、スウェーデン南部のヨンショピング市郊外で四年に一回開催される林業機械の展示・実演会であり、同時に大規模な商談の場でもあります。今回は、二〇〇五年六月一日から四日にかけて、約一、〇〇〇haを会場として開催されました。期間中に、実演により伐採される材積は四、〇〇〇m³以上が予定され、前回(二〇〇一年)には四八二社(海外一三七社を含む)の展示と四十八カ国から五四、三六九人の来場者を集めた世界最大級の展示会で

す。このような機械展が開かれるスウェーデンとはどんな国なのか、簡単に説明します。北ヨーロッパ、スカンディナ비아半島の東半分を占め、国土は日本の一・二倍であるのに対し、人口は日本の僅か約七%にあたる九〇〇万人弱であります。国民は自然を愛し、夏休みともなると首都ストックホルムに住む人々は田舎の別荘に向かい、田舎に住む人はさらに田舎の別荘に向かい短い夏を楽しむといわれ、社会保障制度の発達した福祉国家



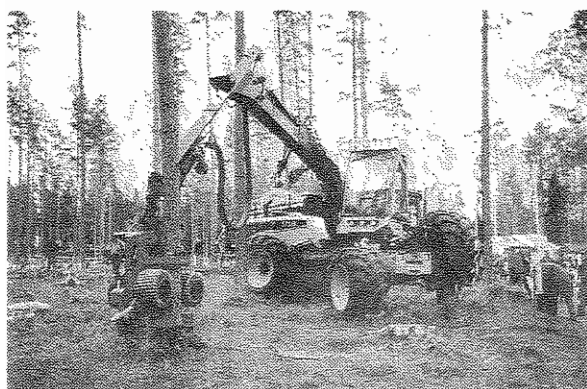
として知られております。林業に關してはというと、製材および合板用丸太の年間生産量は三三、〇八〇千m³(二〇〇一年)と日本の三倍にもほり、チップも含めた用材生産量は五七、〇〇〇千m³と日本の三・五倍を超えるまさに林業大国です。製材品は、VIDA社を筆頭に日本にも輸入されてお

り、もちろん全てKD(人工乾燥)し、プレーナー(かな)仕上げが施されています。

エルミア会場は、スウェーデン南部の都市JONKOPING(ヨンショピング)の南三〇kmにある森林の中で行なわれており、私たちはその南のベクショーという町にあるホテルからバスで会場に向かいました。途中、今年1月にスウェーデンを襲った暴風で七、五〇〇万立方の立木が倒れたといわれ、その風倒木を見ながらの移動でした。

会場に近づくと、渋滞が始まり、まず驚いたのは広大な駐車場にマイカーはもちろんのことであるが、大勢の客を乗せてきた大型バスが数十台もずらりと並んでいることでした。中にはバスを止めておく事が出来ずに急いで人を降ろすと

すぐ帰っていくバスが何台もあり、私たちのバスも同様で停車だけしてすぐ帰っていきました。入場ゲートの前は大勢の客であふれ、やっとの思いで中に入りましたが、もちろん会場の中も人また人。会場はスモールスケール（新割り機械、チェーンソー、丸太輸送用トラックを始め、ありとあらゆる小型？の林業機械）とラージスケール（ハーベスタ、プロセッサ、フォワーダを始めとする超大型林業機械）の大きく二つの会場に分かれて構成され、その二つの会場間をひっきりなしに連絡バスが運行するといった力の入れよう。そこでやはり私は、実演の迫力を求めてラージスケールの会場に見学の重点を置くことにした。スコッチパイン（北欧アカマツ）とノルウェースプルス（トウヒ）が混生する林内の遊歩道を歩いていくとあちらこちらでデモンストレーションが行なわれていた。実演が広告であるため各社最大級のマシンを投入し、見る人を圧巻していた。歩道



ハーベスタによる実演



バンドリングマシンによって圧縮・整形された丸太状になった林地残材

脇の林地でハーベスタが立木を伐倒し、かつ枝を払い、玉切った丸太をフォワーダが集材してまわり、極積みする。その極積みされた丸太をグラップルが別の場所に積みなおしてみせる。これを目の前で見ることが出来た。また、バイオマス用に林地残材を林内で集めて、丸太のように圧縮・整形して運び出すバンドリングマシン（ベラーとも呼ばれる）の実演も見ることが出来た。しかし、実はこのようなデモンストレーションが出来るメーカーはヘッド・アー

ム・ベースマシンのすべてを製作（OEMもあると思うが）しているメーカーに限られており、出展メーカーはハーベスタであればハーベスタヘッドのみ、アームのみ、あるいはベースマシンのみといった部位専門メーカーが大半であった。正確に数えることが出来なかったが、ハーベスタヘッドのメーカーだけでも二〇社前後はあり、日本で有名なヒアップやログリフトといったグラップルのメーカーも二〇〜三〇社あったようだ。ハーベスタヘッドも小型から大型まで

日本円にして二、〇〇〇万円から五、〇〇〇万円以上まで、また、玉切る時に同時に樹皮も剝いてしまいうパルプ材専用のヘッドなど、とにかく種類の多さには驚かされた。日本で見ることが出来るのは、ほんの一部に過ぎないことを痛切に感じた。

一通り見て感じたことは、展示・実演しているベースマシンのほとんどがホイールローダーであり、キャタピラーは目に付かないことである。また、架線集材関連の展示はタワーヤーダを使ったスカイキャリアの実演をしていたオーストリアのコンラッド1社のみで、まさに開催地であるスカンディナビアの国土の平坦さを象徴している。隣の林業国のフィンランドも最高峰は一、三二八mしかないというである。ローダーの巨大なタイヤにつける特殊な形状をしたお化けのようなタイヤチェーンがいたるところで展示されていた。平地のため雨降りが続くとさぞかしぬかるむのだろう。平地には平地に

平成17年7月の販売実績 (組合員からの出荷分)

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した組合員からの合板用丸太の平成17年7月の販売実績は下記のとおりです。

梅雨時期であったせいか、両工場入れともに過去最高の6月に比べるとやや減少し、ホクヨープライウッド(株)への出荷は3,092㎡、北日本プライウッド(株)へは2,857㎡となりました。それでも北日本向けは、過去2番目に多い出荷量であった5月とほぼ同じ量でした。2社合計で5,950㎡と依然として好調な出荷が続いているといえます。

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)			樹種毎	樹種毎
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	㎡	%	%
スギ	1.9	14上	1,279	994	2,273	10,262		57.9
	4.0	14上	437	1,382	1,820	7,448		42.1
	計		1,716	2,377	4,093	17,710	67.2	100.0
カラマツ	1.9	14上	805	262	1,067	5,227		92.5
	4.0	14上	56	146	202	426		7.5
	計		861	408	1,269	5,653	21.4	100.0
アカマツ	1.9	14上	483	72	555	2,771		92.1
	4.0	14上	32	0	32	238		7.9
	計		515	72	587	3,008	11.4	100.0
サワグルミ	1.9	18上			0	0	0.0	100.0
合計			3,092	2,857	5,949	26,371	100.0	100.0

平成17年7月の販売実績 (国有林材システム販売からの出荷分)

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷したシステム販売からの合板用丸太の平成17年7月の販売実績は下記のとおりです。

ホクヨープライウッド(株)へは秋田県からスギ1,558㎡、青森県からカラマツ3㎡、スギ625㎡、岩手県からカラマツ33㎡の計2,219㎡を、北日本プライウッド(株)へは岩手県からカラマツ17㎡を出荷しました。

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)			樹種毎
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	㎡	%
スギ	1.9	14上	2,182	0	2,182	2,485	96.3
カラマツ	1.9	14上	36	17	54	77	3.0
アカマツ	1.9	14上	0	0	0	17	0.7
合計			2,219	17	2,236	2,579	100.0

適した林業技術が発達するわけ、急峻な日本には急傾斜地での作業に適した林業技術が発達してしかるべきであり、平坦地の多い林業機械の先進国から数少ないヒントを見出す意欲と努力が大事であろうと感じた次第であります。

また、会場を回っていて驚いたのは、予想に反し、来場者が年配の男性だけではないということだった。若い女性同士や、ベビーカーを押した子連れのファミリーなどが非常に多く、林業機械展ではなく、まるでテーマパークの中を歩いているような錯覚に陥るほどであった。つまりこれは、老若男女、国民の多くが何らかの形で林業に関わり合いを持っている、あるいは林業を身近に感じている現れであり、林業が国の基幹産業である

ことを誇りに思っているように私には感じられた。日本においても、山村地域のみならず、林業が国民の身近に感じられるような産業形成が進むことを期待して会場を後にしました。

連載しておりました「ヒロシの独白」は、都合によりお休みいたします。

今月のトピックス

素流協より

今年七月、左記の方が新たに素流協の会員となりましたのでお知らせいたします。

- 一、住所 岩手県大船渡市日頃市町字下宿九九一四
- 会社名 平山林業
- 代表 平山勇喜
- 入会日 平成十七年七月二十一日

落穂拾い

▽小泉純一郎首相は「郵政改革」一本やりで衆議院議員選挙を戦ったが、結果は見ての通り、自民党の大勝利である。さて、今後はこの改革をどう仕上げていくのか、決着がつくまでまだまだ山あり谷ありというところであろう。カルロス・ゴーン前日産自動車社長が

次のように話している。「人間と
いうのは、変化を嫌う生物である。
中でも日本人にはそういう傾向が
あるかもしれない。実際、日本で
変化を実現させるためには、い
かにして変化が起こったのか、
“なぜその変化を起こす必要があ
るのか”、“変化を起こすことに
よる利点は何か”、この三点をき
ちんと説明しなければならない。」

近年しきりに、政策や行政施策、
企業運営等の遂行には、「説明責
任」（アカウンタビリティ）が
不可欠要件であると言われるよう
になったが、先のカルロス・ゴ
ン氏の言葉は将にそのことを言っ
ているのである。
また、だれが言ったか忘れてし
まったが、こんな言葉もある。
「変化するものは正しい。変化し

ないものは美しい。」
変化するものがすべて正しいか
どうかは一概には言えない気もす
るが、筆者はそれでも“改革論
者”である。



平成17年8月の販売実績
(組合員からの出荷分)

ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社に出荷した組合員からの合板用丸太の平成17年8月の販売実績は下記のとおりです。

8月はお盆があったにもかかわらず、ホクヨープライウッド㈱への出荷はやや持ち直して3,282㎡、北日本プライウッド㈱への出荷は500㎡ほど持ち直して、はじめてホクヨープライウッド㈱を上回って、3,348㎡となり、過去2番目の出荷量となりました。2社合計でも6,630㎡となり過去2番目に多い出荷量です。4～8月で見ると、昨年同期比42.7%の増加です。

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合	
			ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱			樹種毎	種級毎
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	㎡	%	%
スギ	1.9	14上	1,744	1,242	2,986	13,248		58.2
	4.0	14上	512	1,568	2,079	9,527		41.8
	計		2,256	2,810	5,066	22,775	69.0	100.0
カラマツ	1.9	14上	477	406	883	6,110		92.7
	4.0	14上	37	19	55	481		7.3
	計		514	425	939	6,591	20.0	100.0
アカマツ	1.9	14上	407	105	512	3,282		90.3
	4.0	14上	105	9	115	353		9.7
	計		512	114	626	3,635	11.0	100.0
サワグルミ	1.9	18上			0	0	0.0	100.0
合計			3,282	3,348	6,630	33,001	100.0	100.0

平成17年8月の販売実績
(国有林材システム販売からの出荷分)

ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社に出荷したシステム販売からの合板用丸太の平成17年8月の販売実績は下記のとおりです。

ホクヨープライウッド㈱へは秋田県からスギ604㎡、青森県からスギ564㎡、岩手県からカラマツ28㎡、スギ174㎡の計1,370㎡を、北日本プライウッド㈱へは岩手県からカラマツ351㎡、スギ90㎡の計441㎡を出荷しました。

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合
			ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱			樹種毎
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	㎡	%
スギ	1.9	14上	1,342	91	1,433	3,918	89.2
カラマツ	1.9	14上	28	351	379	456	10.4
アカマツ	1.9	14上	0	0	0	17	0.4
合計			1,370	441	1,812	4,391	100.0